

---

この度、智頭町は、約 3 割の町民の皆様が加入する「全国健康保険協会鳥取支部」(協会けんぽ)と「智頭町民の健康づくり事業に関する包括連携協定」を締結しました。

このように協会けんぽと町が協定を結び、町民の皆様健康づくりを協同して推進する取り組みは、鳥取県東部圏域市町では 1 番目となります。

本町は、鳥取県内でも特に心筋梗塞の死亡率が高い傾向があります。また、糖尿病の治療を受けている人が多く見受けられます。このような生活習慣病を早期に発見し、治療に結びつけるための有効な手段が各種住民健診ですが、本町の健診受診率は平均約 20% 台と、県内市町村のなかでも健診を受ける人が少ない状況です。

このような状況を改善するため、町民や協会けんぽ加入者の健康づくりや医療費の適正化を目指し、両者が手を取り合い健康づくりのための啓発や広報、健診の受診勧奨を行っていきます。

協会けんぽとの連携による働き盛り世代の健康づくりを効果的に行うことで、高齢期を迎えてからの健康・介護の課題の解決にもつながります。

智頭町国民健康保険、後期高齢者医療、協会けんぽの加入者を合わせると町民の約 8 割となります。お互いがもつ医療費データや健診データを分析することで、本町の健康課題をより精度高く見つけ出すことができることも、この協定締結によるメリットだと考えます。

今年は智頭町制施行 100 周年の記念の年でもあります。今後も地域特性に合わせた効果的な健康づくりを推進し、「みどりの風が吹く疎開のまち」にふさわしい、町民の皆様が心身共に健康で、生きがいをもって過ごせる町づくりを行っていきます。



智頭町長 寺谷 誠一郎